



北海道医歌人会詠草

四十三年振りの大雪

美唄 吉村 誠治

美唄の炭砒ヤマの榮えし頃の映画館雪に潰されし夕べのニュース
我が庭に愛し続けし千鳥桜雪に耐へ得ず幹から折れぬ
やうやうに光増し来てこの朝の窓際の雪目に見えて減る
大雪の美唄を発ちて晴れ渡る日高路の空ひたに飲む
四十三年振りの大雪と寒に堪へ八十過ぎし通勤の身ぞ

エゾエンゴサク

札幌 浜島 泉

森を行くエゾエンゴサク咲く道と雪残る溪たにかたがた通る
寒の後春を迎ふる心地すも雪など舞ひて明け淀む街
耳に手を添へて寒さを遮りつ微風なれども季ときは大寒
雨風と霧の知床峠道雪残る谷黄金週間
誕生日祝ひを言ふに聞き損じ耳鳴りのこと言ひもてゆきつ

歴史

釧路 兎玉 昌彦

若き日の課題でありし人生の方程式に解半ばまで
人生の不条理を生きるヒトの知恵GODへの祈りブツダの悟り
幾万の血であがないし戦争に歴史は意味を与えんとする
巨大地震異常気象の続く中太陽黒点磁極の異変
大局を見ぬ政治家の不毛なる論議にいらだつ我らはいずこへ

光柱

旭川 稻積 文子

落日の光柱も消えて闇となり三ヶ月が冴えるサロマ湖のロマン
陽は落ちてサロマ湖畔で祝う誕生日赤ワインのグラスに月影冴える
倅せは二人の健康あるのみと来し方を語り合う程良き酒量
何時よりか人の心がわかる猫となり思いがけない芸におどろく
従順で飼い主の心を癒やす猫絶対と云う言葉は動物のみか

若者

江別 三宅 浩次

若者が皆一斉にスマホ見る電車の中の異様な光景
一つの世も若い者にはきつく言うその老人も昔若者
膨大な国債のつけ次世代の若者に残すこれぞ老醜
若者は芭蕉さびの寂を知らずとも老いてこそ知る一輪の花
若いとき持て余したエネルギーもったいな今にして思う

Cut the Gordian knot (快刀乱麻を断つ)

札幌 山口 康徳

BRICブリックは新興国なれどその力いよいよ強く侮りがたし
おもむろに世事会得せるわがトップその力もて羽搏かむとす
軽川の堤彩る桜花疲れし人ら奮はすごとく
その昔活躍したる原発も神話はいずこ今や逼塞
混迷の世相を鼓舞し現代を活躍あふるる奇策存するや

横浜開港記念館

札幌 古屋 統

岡倉天心生地跡に建つ館ボランティア待ちいて市の歴史説く
漁村より国際都市へ絵と写真百五十余年の歩みつぶさに
開化期の港の商家天心の英語良くせし所以も知られ
大正の震災瓦礫埋め立てて横浜埠頭復興成れる
大正の瓦礫は言えど平成の津波の瓦礫触れ給はざる